

【平均点】

基礎能力
20.2

2025/6/10 現在

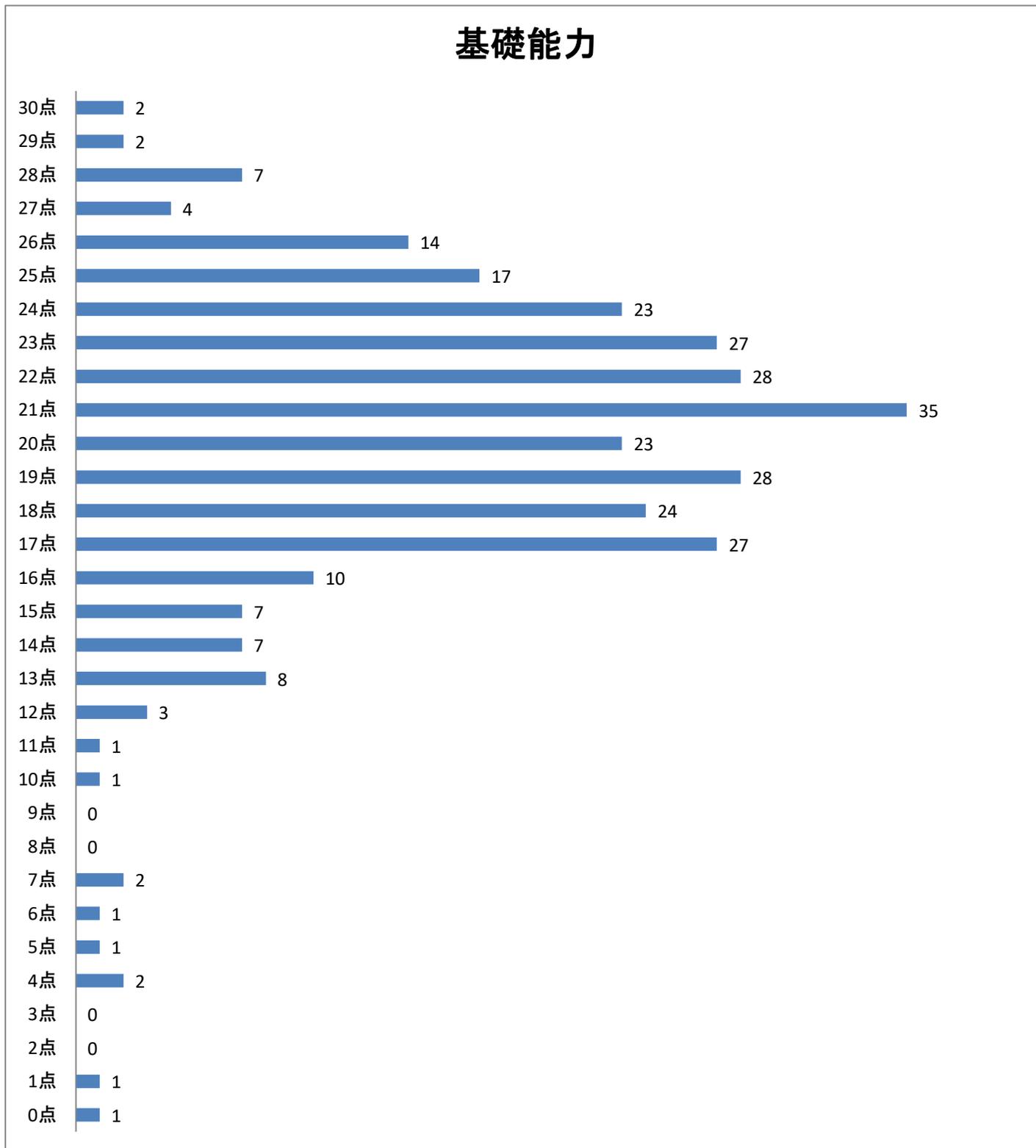
参加人数：306人

【基礎能力試験】

No.	科目	出題テーマ	正答	正答率	肢別					
					1	2	3	4	5	
1	文章理解	現代文	内容合致	1	95.4%	95.4%	2.9%	0.3%	0.0%	1.0%
2	文章理解	現代文	内容合致	5	94.8%	1.6%	0.3%	2.3%	0.7%	94.8%
3	文章理解	現代文	内容合致	2	95.4%	1.3%	95.4%	1.0%	1.0%	0.7%
4	文章理解	現代文	内容合致	1	96.1%	96.1%	1.0%	1.3%	0.7%	0.3%
5	文章理解	現代文	文章整序	5	67.3%	8.8%	10.8%	7.2%	4.9%	67.3%
6	文章理解	現代文	空欄補充	4	78.4%	3.3%	2.0%	11.1%	78.4%	4.6%
7	文章理解	英文	内容合致	3	85.0%	2.3%	4.2%	85.0%	6.2%	1.0%
8	文章理解	英文	内容合致	5	83.7%	1.6%	3.9%	3.3%	6.2%	83.7%
9	文章理解	英文	内容合致	4	79.7%	3.3%	5.2%	8.5%	79.7%	2.0%
10	文章理解	英文	空欄補充	2	70.6%	10.8%	70.6%	4.9%	9.2%	2.6%
11	数的処理	判断推理	命題	2	82.7%	2.3%	82.7%	2.9%	3.9%	7.2%
12	数的処理	判断推理	集合	5	59.2%	5.9%	4.2%	11.8%	15.0%	59.2%
13	数的処理	判断推理	リーグ戦	2	77.1%	5.9%	77.1%	6.9%	5.2%	3.6%
14	数的処理	判断推理	部屋割り・座席	4	63.7%	1.3%	16.0%	14.4%	63.7%	3.3%
15	数的処理	判断推理	順位的順序	5	76.5%	3.3%	11.4%	2.9%	4.2%	76.5%
16	数的処理	判断推理	順位的順序	1	34.3%	34.3%	14.4%	26.1%	18.3%	3.9%
17	数的処理	空間把握	展開図	1	50.7%	50.7%	3.3%	24.5%	13.1%	7.5%
18	数的処理	数的推理	確率	3	55.9%	4.6%	15.0%	55.9%	14.4%	8.5%
19	数的処理	数的推理	旅人算	3	80.1%	2.3%	6.2%	80.1%	5.9%	3.9%
20	数的処理	数的推理	整数の性質	5	50.7%	8.2%	8.2%	15.0%	15.4%	50.7%
21	数的処理	数的推理	図形の計量	3	34.3%	5.6%	6.5%	34.3%	21.6%	29.7%
22	数的処理	資料解釈	複数の資料	4	65.7%	9.8%	5.6%	10.8%	65.7%	6.9%
23	数的処理	資料解釈	複数の資料	3	61.8%	3.3%	6.5%	61.8%	10.1%	16.7%
24	数的処理	資料解釈	構成比	4	58.2%	1.3%	13.4%	11.8%	58.2%	13.1%
25	時事	社会事情	環境や科学技術の動き	4	51.3%	14.7%	14.7%	9.5%	51.3%	7.5%
26	時事	社会事情	我が国の社会情勢	5	53.6%	20.3%	4.6%	10.8%	9.2%	53.6%
27	時事	社会事情	我が国の文化	2	55.2%	9.2%	55.2%	15.4%	10.8%	6.9%
28	時事	社会事情	我が国の食や食料事情	2	65.0%	9.5%	65.0%	2.3%	10.8%	10.1%
29	時事	社会事情	海洋やエネルギーの動き	1	42.8%	42.8%	5.9%	13.1%	14.4%	20.9%
30	情報	テクノロジー系	フローチャート(線形探索法)	2	53.3%	5.2%	53.3%	12.4%	22.5%	4.2%

令和7年度 国家一般職(行政:教養区分) データリサーチ得点分布表

参加者	306
基礎平均	20.2



《各地域別の平均点(教養区分)》

地域	基礎能力	地域	基礎能力
北海道	20.8	中国	20.9
東北	18.0	四国	18.4
関東甲信越	20.1	九州	19.1
東海北陸	20.4	沖縄	16.6
近畿	21.1		

※2025/6/10時点での数値となります

令和7(2025)年度 本試験データリサーチ 国家一般職(教養区分) 講評

基礎能力試験

◆文章理解 (No.1~10)

【現代文】 内容合致問題が4題、文章整序問題が1題、空欄補充問題が1題出題された。どれも平易であり、得点しやすい問題であった。満点を取ることも可能であろう。

【英文】 内容合致問題が3題、空欄補充問題が1題出題された。文章整序問題の出題もなく、解答しやすい問題が多かった。満点を取ることも可能であろう。

◆数的処理 (No.11~24)

【判断推理】 6題の出題であった。No.16を除けば、基本～標準的な問題であったので、しっかりと対策ができていた人にとっては、正答数を伸ばすことができたであろう。No.16は出入り順で判断推理のなかでも時間のかかる問題である。できていなくても気にする必要はない。

【空間把握】 1題の出題であった。ABCが書かれた3面に着目して、ABCの相対的な位置関係をつかむことが大切であった。面を90°回転していきながら確認するとよかったが、苦手になっている人が多いのが現状である。正答できていない人で、まだ試験がある人は、復習をしておいてほしい。

【数的推理】 4題の出題であった。No.18の確率、No.19の旅人算は標準的な問題であったので、正答しておきたい。No.21は高さの等しい三角形であり、左右の面積比を求めると、それが底辺比に一致するという公式である。この問題も正答できていない人で、まだ試験がある人は、復習をしておいてほしい。

【資料解釈】 3題の出題であった。3題とも標準的な資料で、しっかりと対策ができていた人にとっては、馴染のある資料であった。数的推理で得点が伸ばせない人にとってはラッキーであったと思う。

【総評】 取りやすい問題とそうでない問題がはっきりしている傾向にあった。問題の取捨選択がほんとに大切であることを感ぜられる14問題であった。

◆時事 (No.25~29)

悪問・奇問はなかったが、時事の誤りは細かいものが多く、人文・自然・社会科学の知識で外す方がやりやすかった。また、国際事情のまとまった問題がなかったのも特徴的だった。No.25(環境や科学技術)は、地理・地学の知識がなければ難しかった。No.26(我が国の社会情勢)は一本釣りできる問題だった。No.27(我が国の文化)は、どの選択肢も嘘が満載だが、いずれも間違いのポイントが細かいため判別が難しい。No.28(我が国の文化)は常識的な知識が引っかけのポイントになっていた。No.29(海洋やエネルギー)は、時事と知識分野の間違いが両方入っていたが、時事の間違いは細かいので、自然科学の知識で判別する方が解きやすかった。

◆情報 (No.30)

【No.30】 は探索アルゴリズムのフローチャートに関する出題で、情報の定番テーマであり、学習経験のある方にとっては平易な内容であった。問題文を精読すれば、少なくとも空欄ウは(選択肢のつくりから自動的に空欄イも)正答でき、変数 a が1から N までカウントアップしていくカウンタ変数であることが読み取れれば正解することができた。

課題対応能力試験

※課題対応能力試験の講評は割愛させていただきます。

一般教養論文試験

◆一般教養論文試験

環境問題の中でもごみ問題について出題された。(1)では「意義、必要性」、(2)ではごみ総排出量減少の「原因」について、(3)ではごみ収集手数料有料化の是非について論じなければならない。(2)は資料から読み取れることだけでなく、当時どのようなことがあったのかについて考える必要があるが、それ以外は一般的な環境問題対策で学んだ内容で十分に対応できる。(1)～(3)と論点が多いので、手早く構成して論文を書き始めることができると良い。

令和7年(2025年)度 国家一般職(大卒程度：教養) ボーダーラインについて

国家一般職（大卒程度：教養区分）試験における以下のボーダーラインに関する情報は、全てTACにおける推測であることをご了承ください。

なお、後日人事院から平均点・標準偏差・基準点等が公表される予定ですが、現時点においては不明であるため、今年度実施したデータリサーチの結果と行政区分における傾向を踏まえてボーダーラインを推定いたしました。

また、教養区分は今年度が初めての実施になるため、前年との比較ができないこともご注意ください。

1. 受験状況

令和7年度の全地域合計の採用予定数は910名、全地域合計の申込者数は4,983名となりました。よって、応募倍率(全地域合計の申込者数/全地域合計の採用予定数)は、約5.5倍(行政区分では約5.8倍)となっています。

国家一般職(行政区分)の最終合格者数は概ね採用予定数の1.8倍前後となっていますが、教養区分でも同様だと仮定すると、最終合格者が全地域合計で1,500名前後になると推測されます。一方、受験率(受験者数/申込者数)については、地域区別の採用予定数と、行政区分における地域別の受験率を参考にし、全地域合計で3,800名程度が受験したと予想しました。このように考えると、全地域合計の実質倍率(受験者数/最終合格者数)は約2.5倍前後になると考えられます。また、一次試験合格者数については、行政区分と同様の傾向であると考え、全地域合計で概ね採用予定数の2.5倍前後と推定し、一次合格者数は全地域合計で2,300名前後になると考えます。

一般職（教養） 全地域合計	採用 予定数	一次試験		一次 合格者数	最終 合格者数	実質 倍率
		申込者数	受験者数			
令和7年度	910	4,983	3,800	2,300	1,500	2.5

※上表網掛け部分は予想値

地域区別の一次試験合格者数は参考となるデータがないため非常に困難ですが、行政区分における各地域の傾向を参考に、下表のように推測しました。このことから、一次合格のためには下表の割合(上位25%~86%)以内の成績が必要だと推測します。

令和7年 度	採用予定	(予想値)		
		受験者数	1次合格者数	割合
本省	220	—	—	—
北海道	110	220	190	86%
東北	40	180	130	72%
関東甲信越	240	1,600	990	62%
東海北陸	20	520	130	25%
近畿	80	480	280	58%
中国	50	200	170	85%
四国	40	120	100	83%
九州	90	290	240	83%
沖縄	20	190	70	37%
合計	910	3,800	2,300	61%

※上表網掛け部分は予想値

2. 一次合格の予想ボーダーライン(基礎能力)

今回の調査において、教養区分における基礎能力試験の平均点は約20.2点(67.3%)でした。初年度の試験であるため、前年との比較はできませんが、問題が共通である行政区分と比較すると約0.5点低い結果となりました。行政区分で実施した調査結果も踏まえると、今年度の基礎能力試験の難易度は前年並みだと考えられます。

一次合格者数(予測値)が受験者数(予測値)に占める割合を地域ごとに仮定し、今回の調査結果を、基礎能力試験のみで単純に当てはめると、17~23問(得点率:約57~77%)前後の正答が一次合格のために必要となります。

しかし、教養区分の第一次試験は、基礎能力及び課題対応能力試験の成績を総合して合否を決定するため、実際はそれよりも低くなると推測されます。また、課題対応能力試験の得点により基礎能力試験に必要な得点は5点前後変動すると

考えられます。このことから、一次合格に必要な基礎能力試験の得点は下表のように15～21点の範囲になるのではないかと推定します。

ただし、基準点があるため、課題対応能力試験は素点(正答-誤答)が36以上あることが前提となります。

令和7年度予想(基礎能力)	北海道	東北	関東	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄
一次合格最低点(素点)	15	16	17	21	18	15	15	15	20

3. 二次試験(人物試験)について

試験種目	一次試験		二次試験	
	基礎能力	課題対応能力	論文試験	人物試験
配点比率	4/9	1/9	2/9	2/9

国家一般職(教養区分)の配点比率は、上表の通りです。択一試験(基礎能力・課題対応能力)の配点比率が全体の5/9と大きな割合を占める一方、択一試験と同日に実施された論文試験は一次試験の合格者を決定する際には考慮されない点や、配点比率も2/9と非常に小さな割合しかない点が特徴です。

例年、択一試験の結果が芳しくなかった受験生の中には、二次試験での逆転の可能性は低いと考え、あきらめてしまう方もいますが、最終合格者は択一試験(基礎能力・課題対応能力)・論文試験の筆記試験と人物試験の総合評価によって決定されます。したがって、一次試験の結果に関わらず、最後まであきらめずに人物試験の対策を行ってください。

4. 官庁訪問について

国家一般職試験では、最終合格したとしても、必ずしも採用されるとは限らない点に注意が必要です。国家一般職試験を通じて採用されるためには、「官庁訪問」が不可欠です。今年度の官庁訪問は7/2(水)午前9時より開始されます。

「官庁訪問で得られる内々定は最終合格時の点数(順位)で決まる」と考えている受験生もいますが、最終合格と採用は、全く異なるプロセスで決定されます。したがって、一次試験で順調に得点できた方も、一次試験の結果に多少の不安を抱えている方も、まずは第二次試験の面接対策の準備をしっかりと行い、同時に官庁訪問の準備を整えていきましょう。最後まであきらめずにがんばって取り組んでいただきたいと思います。皆様の今後のご健闘を、講師・スタッフ一同祈念いたしております。

以上
TAC公務員講座